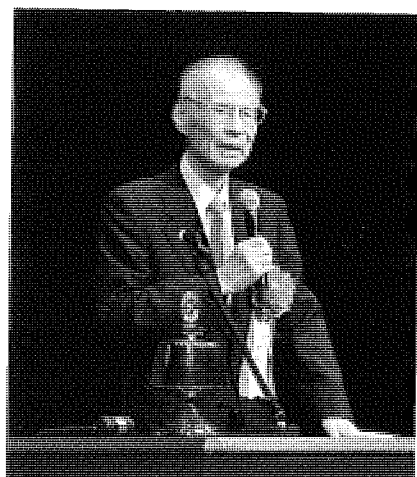


地区指導者育成セミナー



RI会長代理 渡辺好政 様

演題：「素晴らしいロータリアンで
あり続けるために」

職業奉仕の重要性について

ウィルフリッド会長、李東建会長エレクト、ロータリー・シニアリーダー、地区ガバナーエレクトの皆さん、ロータリー家族の皆さん。

私は、1993年、ガバナーエレクトの皆さんと同じ席に、皆さんと同じく、ロータリーのピンを付けて、この国際協議会の席についておりました。当時のボブ・バースRI会長エレクトは、私たちに次のように語りかけました。

「ロータリーのピンを付けている人は、次のようなメッセージを発信しているのです。『あなたは私を信頼することが出来ます。私は頼りになります。私は信用に値します。私は受けるよりも多くを与えます。私はいつでもお手伝いします。』」皆さんが付けているロータリー・ピンに対する世間の信頼は、ロータリーの創立以来、世紀を超えて、私たちの先輩が、血のにじむような努力を重ねて勝ち得たものであります。

本日、私に与えられたテーマは、「職業奉仕の重要性」であります。ロータリーの創始者ポール・ハリスは次のように述べています。「社会に役立つ人間になる方法は色々ありますが、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります。」職業奉仕とは、あらゆる職業に携わらる中で「奉仕の理想」を生かしてゆくことをロータリーが育成、支援する方法であります。ロータリーの本質は、実に、職業の中にあります。職業奉仕こそ、ロータリーの根幹であり、金看板といわれる所以です。しかし、職業奉仕は、他の奉仕部門に比べて、極めて、難解であるといわれます。

皆さまには、目の前に、一本の樹木、すなわち、「樹」を想像していただきたいのです。それは、「ロータリーの樹・2008」であります。私は、ロータリーを一本の「樹」に喩えて職業奉仕の重要性をご説明いたします。ロータリーを樹に喩えることは、以前から、多くの先輩によって考えられています。私は、ロータリーについての私の思いを「ロータリーの樹・2008」と命名して、1905年以来、世紀を超えて、発展し、進化しつつあるロータリーに新しい息吹きを見出し、将来への多くの夢を託しながら、その多くの夢をどのような形にしてゆくかを、皆さまとご一緒に学び、実践してまいりたいと願っております。まず、「ロータリーの樹・2008」についてそれぞれの大きな位置づけを申し上げます。「根」はクラブ奉仕であり、「幹」が、私の講演の主題であり、文字通り、ロータリーの根幹である職業奉仕、「枝と葉」は、社会奉仕、国際奉仕、「花」はロータリー財団となり、それぞれに多くの「実」を結んでまいります。

1905年、ポール・ハリスによって創始された当初のロータリー・クラブは、その歴史が示すように、はじめに、親睦・助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に、「水と栄養」を送る「根」は、「クラブ奉仕」であります。ロータリー・クラブ会員は、クラブという学校で、「相手のことに思いを馳せ、相手を助ける」という奉仕の理想を学び、その真意が、共存共栄であるとわかります。そして、クラブ会員は、「ロータリーの目的」を基本とし、ハーバート・テラーによって実証され、国際的にも有効性が認められたロータリアンの行動規範である「四つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することから、奉仕の実践によって、ロータリアンに進化します。ロータリー・クラブの会員か

らロータリアンに進化して行く一連の進化過程の基盤には、公式標語となっているフランク・コリンズの「超我の奉仕」があり、現在、第二標語と考えられるアーサー・シェルドンによる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」が存在します。日本のロータリアンの多くは、この2つのモットーを一枚のコインの裏・表と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。また、ロータリーは、理念の高唱に終わるのではなく、行動の哲学なのであります（決議23-34）。

クラブ奉仕という「根」から吸収された「水」と「栄養」、すなわち、「サービスの理念」は、ロータリーの根幹といわれる職業奉仕の「幹」に入り、「幹」の中にある「奉仕の理想」という導管を通して「社会奉仕」、「国際奉仕」という枝や葉に届き、そして、「ロータリー財団」という「花」を咲かせます。また、それぞれの奉仕活動が、すべて、お互いに助け合い、励まし合い、相働いて多くの「実」を結びます。そして、ロータリーの先輩たちが、過去において夢見ていた多くの事柄、また、現在に生きている私たちが夢として抱えている多くの事柄が、「形あるもの」となるのであります。その事柄には、ポリオ撲滅、平和フェロー、ロータリー財団奨学生、グループ研究交換（GSE）、世界社会奉仕（WCS）などの多くの素晴らしい形のある実を結んできたのであります。木のよしあしは、その実においてわかんと言います。皆さまには、ロータリーの樹・2008の説明から、ロータリーの基本であり、根幹である職業奉仕の重要性が理解されたと思います。

ロータリーの一部には、職業奉仕は、難解であるが故に、ロータリーの拡大や会員増強、会員維持の妨げになっているという意見が聞かれることがありますが、事実は逆であります。世界でも、自己の利益のみを目標としたために、巨大企業の不祥事が起こっており、日本でも、食品業界のみならず、各方面での不正が多発しております。自分自身の職業が、他人のための事業であるとの認識に立つとき、ロータリーの職業奉仕の真髓が理解できると思います。歴史的に見ましても、今ほど、職業奉仕の理念を必要としているときはないのであります。「事業の倫理的水準が理想に近づいている場所でロータリーが最も栄えるとは喜ばしいことではないでしょうか」とは、ポール・ハリスの言葉です。

1987年、国際ロータリー職業奉仕委員会が「職業奉仕に関する声明」を発表し、職業奉仕は、クラブとクラブ会員両方の責務であるとされ、1989年の規定審議会が「ロータリアンの職業宣言」が採択されました。

国際ロータリー理事会は、2002-03年度に長期計画委員会を発足させました。2007年度に、国際ロータリー長期計画委員会は、財団の未来の夢計画との具体的な活動の統一性と整合性を図り、新しい国際ロータリー、ロータリー財団の使命、ビジョン、中核となる価値観を発表しました。そして、2007-2010年の新しい7つの優先項目を決定し、国際ロータリー理事会に答申しました。その中には、ポリオ撲滅、公共イメージ、会員増強に加えて、ロータリーに特徴的な職業倫理の高揚、職業技能の開発など具体的な実践目標を掲げ、ロータリー活動の基本である職業奉仕への取り組みが強調されました。

現在、世界中のロータリー・クラブ、地区では、職業技能の教育を支援する多くの活動が行われております。日本のロータリアンである横須賀商工会議所会頭の小沢一彦氏は、在籍されている横須賀ロータリー・クラブ全員の支援を得て、職に付けないフリーター、子育てで一旦離職した女性、母子家庭の母親などに職業訓練を行い、その人たちの就職を支援・促進することを目的とする「キャリアサポート事業」の普及に成功しました。日本では、現在、就職をすることが難しく、特に、地方での就職は困難です。スライドの元保育士の女性は、再就職の希望を持ちましたが、キャリアとスキルがなければ、自分の希望する職業に就けないことを知らされ、キャリアサポート事業によって、キャリア訓練を受け、認定書を受領して、新しい職を得て、充実した日々を送っています。なお、このキャリアサポート事業は、日本国政府にもその成果が認められ、初年度は、29億円の予算がつけました。そこで、日本商工会議所は、日本全国の517の商工会議所に対して、この事業への取り組みを奨励しています。

また、自分の職業技能を地域社会や国際社会の奉仕活動に用いた経験を持っている多くのロータリアンの



実話が、私たちに感動を与えてくれます。その1つをご紹介します。米国のロータリアン眼科医、ウィリアム・プリンカー氏とデイビッド・プリンカー氏のご兄弟は、オハイオとオクラホマで眼科診療をしていますが、「Eye Care Mission」を結成し、戦乱で荒廃した国々に行き、貧しい人々に、眼科検査や眼鏡調整などの眼科診療を行っています。出向いた国々は、ベトナム、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ケニア、ナイジェリアなどです。2006-07年度RI広報賞を受賞した職業奉仕プロジェクトはロータリーの

ウェブサイト (www.rotary.org) で報告されています。このような新しい価値観に基づいた職業奉仕の理念の実践のために、ウィルフ・ウィルキンソンRI会長の英断によって、10年ぶりに、国際ロータリー職業奉仕委員会が立ち上げられました。

ご参会の皆さま、私たち一人一人が、ロータリー創立の原点を探り、職業奉仕倫理の高揚を掲げながら、一緒に、ロータリーの「夢をかたち」あるものにして行こうではありませんか。